こんな活動です

学校を核とした地域との参画・協働の取組
～地域の教育力を生かしたCSの取組

熊本県荒尾市	●活動名	●関係する学校名
	さくらやま学校運営協議会	荒尾市立桜山小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	154 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―				
	―	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	―		2人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成31年4月1日設置		90人				
参考URL	http://es.higo.ed.jp/sakurayama/						

●連絡先 熊本県荒尾市桜山町3丁目25番1号 ☎ 0968-68-0201

●体制図

●活動の概要・経緯

桜山小学校は、平成29年度文部科学省から、「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の指定を受け、平成31年度からのコミュニティ・スクール発足に向け、準備をしてきた。本校の開校当時は住宅地の整備によりたくさんの住宅が新築され、市営のアパートも多数建設された。児童数も多く、荒尾市では最後にできた新しい小学校であった。しかし、近年、地域の住民の高齢化が進んでいる。また、市営のアパートや住宅には、若い世代が引っ越し、昔からいる住民と新しい住民の二極化が進んでいる。そこで、本取組により住民をつなぎ、地域の子どもを地域の大人が育てることにより、子どもは地域から学び、可愛がられ、大人は子ども達から慕われ、尊敬される関係を築くことができると考えた。さらに、将来その子ども達もまた地域のために貢献してくれるのではないかと考えた。推進委員会では、子どもを交えた熟議を重ね、地域アンケートを実施・分析し、本校のコミュニティ・スクールの構想を作り、「学校支援プロジェクト」「防災プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」の3つのプロジェクトを位置づけた。また、学校のカリキュラムとリンクさせた具体的なプランを考え、地域と学校が協働し、目標を共有した活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

① 学校支援プロジェクト：学校教育活動の活性化を図るため、地域（外部）人材を積極的に活用する。クラブ活動への外部人材派遣（生け花・茶道・絵手紙等）、低学年への学習支援ボランティア、図書の貸し出し・読み聞かせ等の読書推進ボランティア、陸上指導・ミシン、糸鋸等の学習支援ボランティア等
② 防災プロジェクト：児童や大人の防災意識・行動力を高めるため、緊急時の災害を想定した取組を企画立案・実行する。生活安全委員会の児童と大人による防災熟議、地域との合同防災熟議及び合同防災実践（避難所経営）
③ 地域貢献プロジェクト：地域の課題をふまえ、桜山校区をさらに住みよい地区にするために、学校（児童）・家庭（保護者）・地域住民の協働活動を企画立案・実行する。花作りコラボ・桜ゆりかご会交流（低学年）、梨園（福祉施設）交流、クリーン作戦コラボ、さくらやまげんき祭り参画等

【実施に当たっての工夫】

3つのプロジェクトそれぞれに成長モデルを設定し、目標を持ち、それぞれの活動に取り組んでいる。学校支援プロジェクト部会では、地域学校協働活動推進員と学校チーフが地域・学校のそれぞれの窓口になり、様々な教育活動にボランティアの支援を組み合わせたことによって、円滑に活動できている。防災プロジェクト部会では、推進委員（大人）と高学年による公開熟議の他に推進委員会での大人だけの熟議、さらには、ランチミーティングと称し、給食時に大人と子どもの熟議を実施した。今年度は、「児童による避難所経営」を実施した。大人にはサポートに回ってもらい、地域の方も多数参加し、児童にとって貴重な体験をさせていただいた。地域貢献（GCPH）プロジェクトでは、学校の教育課程である「総合的な学習の時間」に位置付け、地域の方との交流や地域行事等への参画を学習として取り組んだ。テーマは、花いっぱいの学校・地域（Gグリーン）、きれいな街・公園（Cクリーン）、みんなで祭り（Pハッピー）、やさしく交流（Hハート）の4つである。そして、2月最後の土曜授業では、すべての活動に関わってくださったボランティアの方への感謝の催しとして「桜っ子感謝の会」を開催している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校支援プロジェクトでは、子どもがボランティアの方の専門的な指導に触れ、積極的に関わることで、コミュニケーション能力が身についた。また、推進員による人材発掘により、学習活動が充実した。防災プロジェクトでは、ランチミーティング・熟議・実践により、様々な活動を子どもが、主体的に考えられるようになった。地域貢献プロジェクトでは、大人の予想以上に、自分たちで考え、アイディアを出し、動いていた。自分たちが祭りに参画し、祭りを動かしているという「地域の一員」としての高まりにつながっている。本活動を実行することで、昨年度の学校評価アンケートでは、児童変容の指標としている自己有用感と地域行事への参加状況が高くなった。また、本年度の全学調での児童質問紙でも大きく自尊感情が向上するという成果につながっている。

● その他

毎朝1・2校時に低学年の授業支援にあたる学習支援ボランティアがあり、個別の対応を図っている。また、授業では、電子黒板やタブレットで、自分の考えを発表したり、まとめたりして、ICTの活用を図っている。

「避難所経営」のための児童・推進委員との公開熟議

「避難所経営」で児童が地域の方と交流している様子